

アジア債券市場の現状と今後の課題

村松 健

目 次

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. はじめに | 4. 流通市場 |
| 2. アジア債券市場の規模 | 5. 足元の動き |
| 3. 発行市場 | 6. 今後の取組みに向けて |

1. はじめに

1990年代後半のアジア通貨危機は、アジア新興諸国における通貨と期間のダブルミスマッチが原因として指摘されており、域内の資金循環形成の重要性と、資金循環を実現する債券市場の必要性が認識された経緯がある。このような反省を踏まえ、ASEAN+3財務大臣会合主導の下、アジア債券市場育成イニシアチブ（ABMI：Asia Bond Market Initiative）などの域内地域金融協力が進展しており、このような取組みやアジア諸国の経済成長の結果、アジア債券市場（注1）の規模の拡大が顕著となっている。本稿では、ABMIの取組みの成果の一つであるアジア・ボンド・オンライン（注2）に基づき、アジア債券市場の足元の動向を確認するとともに、今後の課題につき検討し

たい。

2. アジア債券市場の規模

2014年末のアジア債券市場の規模は、約8.2兆ドルとなった。00年末の市場規模は約0.8兆ドルであり、14年までで約10倍の規模に成長している（図表1）。

国債と社債に分けて考えると、アジア債券市場は萌芽期こそ国債主導で発展していたが、アジア通貨危機以降、アジア新興各国は国際通貨基金（IMF）の支援を仰ぐこととなり、00年代前半は国債の残高の伸びが停滞し、結果として社債割合が高まることとなった。その後各国経済の正常化に従い、国債の発行も回復し、足元は、国債・社債それぞれがバランスよく発展している状況と言



村松 健（むらまつ けん）

みずほ銀行証券部調査チーム（内外資本市場全般、証券決済制度、税制等を担当）。1996年慶應義塾大学法学部を卒業後、日本興業銀行に入行。富山支店、業務部、証券部、広島営業部を経て、2009年2月より現職。著書に『銀行実務詳説 証券』（共著、2011年、金融財政事情研究会）、『NISAで始める「負けない投資」の教科書』（共著、2014年、東洋経済新報社）。